

第3回生萱歴史探検ツアーガイド



第3回生萱歴史探検ツアーの内容

(1) 佐久間象山記念碑公園



- ①佐久間象山は、文化8年（1811年）松代で生まれた。松代藩出身で幕末の開国論者。江戸で遊学して色々と学び、藩主の真田幸貫が老中の時に顧問となって海防策を建言し、蘭学を研修し、砲術を講じた。門下に、勝海舟・吉田松陰・坂本龍馬ら幕末の国事に活躍した多数の逸材が蟠集した。安政1年（1854年）吉田松陰の密航企画に連座し、幽閉。後に許され、元治1年（1864年）幕命によって上洛した所、攘夷派の浪士に暗殺された。54歳であった。
- ②試射については、目標の一重山まで約2Km見渡す限り何もない絶好の場所だったからと言われている。試射は、嘉永4年（1851年）に宮崎組の立石（唐崎山の中腹）で行われた。試射された砲弾は、現在も埴科縣神社に保存されている。
- ③記念碑公園については、昭和50年に埴科土地改良区による農地整備事業で発生した余剰地を1箇所に集積した場所を公園にして、大砲を試射した時に象山が詠んだ詩を詩碑として建立し後世に伝える場所とした。

④象山が詠んだ詩

シュンヤ ハレ ジョウ タイホウ エン シ リン トウキョウ マサ ホウヒ
春夜 晴に乗じて 大砲を演ず 四林の桃杏 正に芳菲なり

イツセイ ヘキレキ テンチ フル バンジュ ラッカ リョウラン ト
一声の霹靂 天地を震わし 万樹の落下 繚乱として飛ぶ

⑤詩の訳

春の晴れた日に、大砲の試射をした。周囲の山には、桃と杏の花が満開でいい香りがする。大砲を撃ったその音が大きな音で、天と地が震えた。桃や杏の咲いた花が乱れ飛ぶ程であった。

(2) 雨乞い地蔵



その昔、弘法大師が真言宗の布教のため、全国行脚の折に、当生萱の地に立ち寄られ、夏の暑い時期の為、喉が渴ききって大変困っておられ、村人に水を所望された。村人は、大切な水だが腹いっぱい飲んでくださいと差し上げた。弘法様は、これで命が助かったと大喜びされて何かお礼にと、水不足で悩んでいる村人の為にとお地蔵さんを刻んでくださった。それ以来、日照りで困ったときに、そのお地蔵さんを川に入れて団扇太鼓で年寄りの人が、南無妙法蓮華經を一心に唱え雨乞いをした。

(3) 庚申塔

コウシントウ



庚申塔は庚申塚ともいい、中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石碑、石塔のことで単に「庚申」と刻まれたものや「庚申塔」と刻んだもの、あるいは金剛像が刻まれた物など様々な物が有ります。庚申の年（最近では昭和55年）や庚申講を3年18回続けた記念に建立される事が多いとされています。庚申講とは、庚申の日に人の体内に居ると言う三尸（さんし）と言う虫が寝ている間に天帝にその人の悪事を報告に行くのを防ぐ為、庚申の日に夜通し眠らないで天帝や猿田彦や青面金剛（しょうめんこんごう）を祀って宴会などをする風習です。

(4) 蓮華寺入り口の六地蔵



現世利益を祈る民間信仰で、人間が死後にゆく大道（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上）のどこにいても、救済の手を差し伸べる六地蔵は、墓地や村の辻の他寺院の入り口には必ず建てられている。

(5) 寺内芳木



もとは、播州姫路藩士であったが、故あって浪人となり、生萱村の蓮華寺に隠棲して良禅と号した。文政7年（1824年）姫路に生まれた。芳木は、文武両道に秀で村内の子弟を教育することがすこぶる懇切であった。

(6) 蓮華寺



蓮華寺は、天正9年（1581年）3月に創立、松代町寺尾の「福德寺」の兼務寺であり永年にわたり友好関係が保たれていた。しかし、大東亜戦争敗戦後農地大改革があり、その煽りを受けて地主不在のレッテルを貼られて、無財産になってしまった。

明治5年(1872年)に「学制」がひかれた時、生萱村は森区と同じ学校区であって、森村に「有明学校」（興正寺）があり、生萱分校が蓮華寺を校舎にして設けられた。明治15年からは独立して「生萱学校」となり、明治19年連合町村制がひかれて、雨宮・土口と統合して「雨宮学校」（旧雨宮小学校）となった為、生萱学校の役割を終えた。

時は過ぎ、昭和50年頃「福德寺」との交友を復興しようとしたが、なかなか折り合いがつかなかった。その後、松代町西条の「清水寺」の住職が蓮華寺の兼務住職になって頂いた。そして、昭和63年9月からは毎年施餓鬼法要を行ってきましたが、諸事情により現在は行っていない状況で、生萱区が管理しています。

※ お知らせ

パソコン、スマートフォン等のインターネットで「生萱を知る会」と検索して頂くと、生萱を知る会のホームページが出てきます。そこで、生萱を知る会の活動内容等を見ることが出来ますので、活用して頂ければ幸いです。